

銀行企業関係と中小企業の法的 整理方法の選択

胥 鵬

RIETI・法政大学経済学部

鶴田大輔

政策研究大学院大学

袁 媛

法政大学大学院

銀行の役割

情報生産

事前審査、監視

銀行融資の特徴

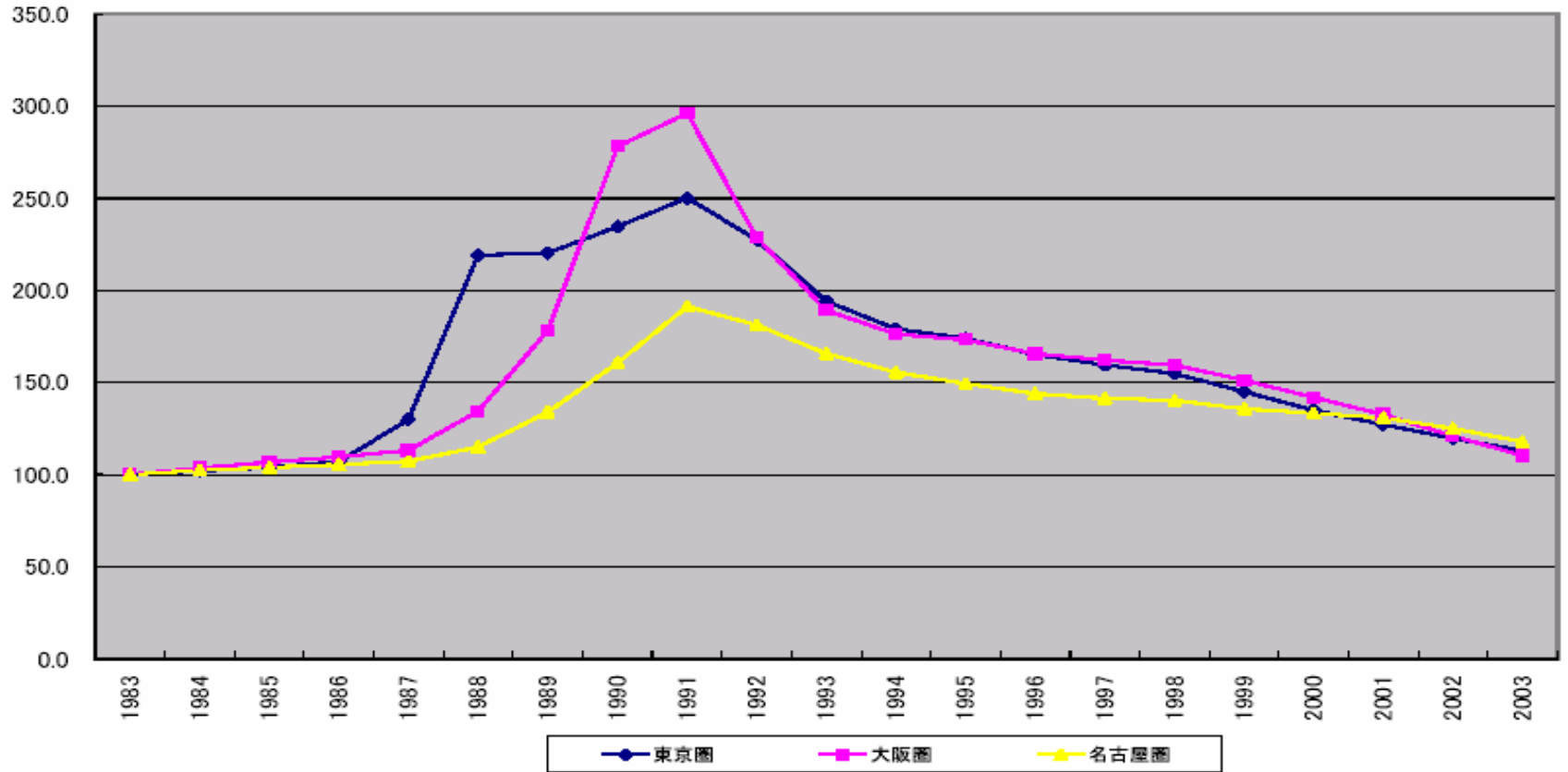
担保付短期融資

担保・保証

90年代初期までに、土地担保を重視することは、合理的だった！

土地の担保価値の推移(住宅地)

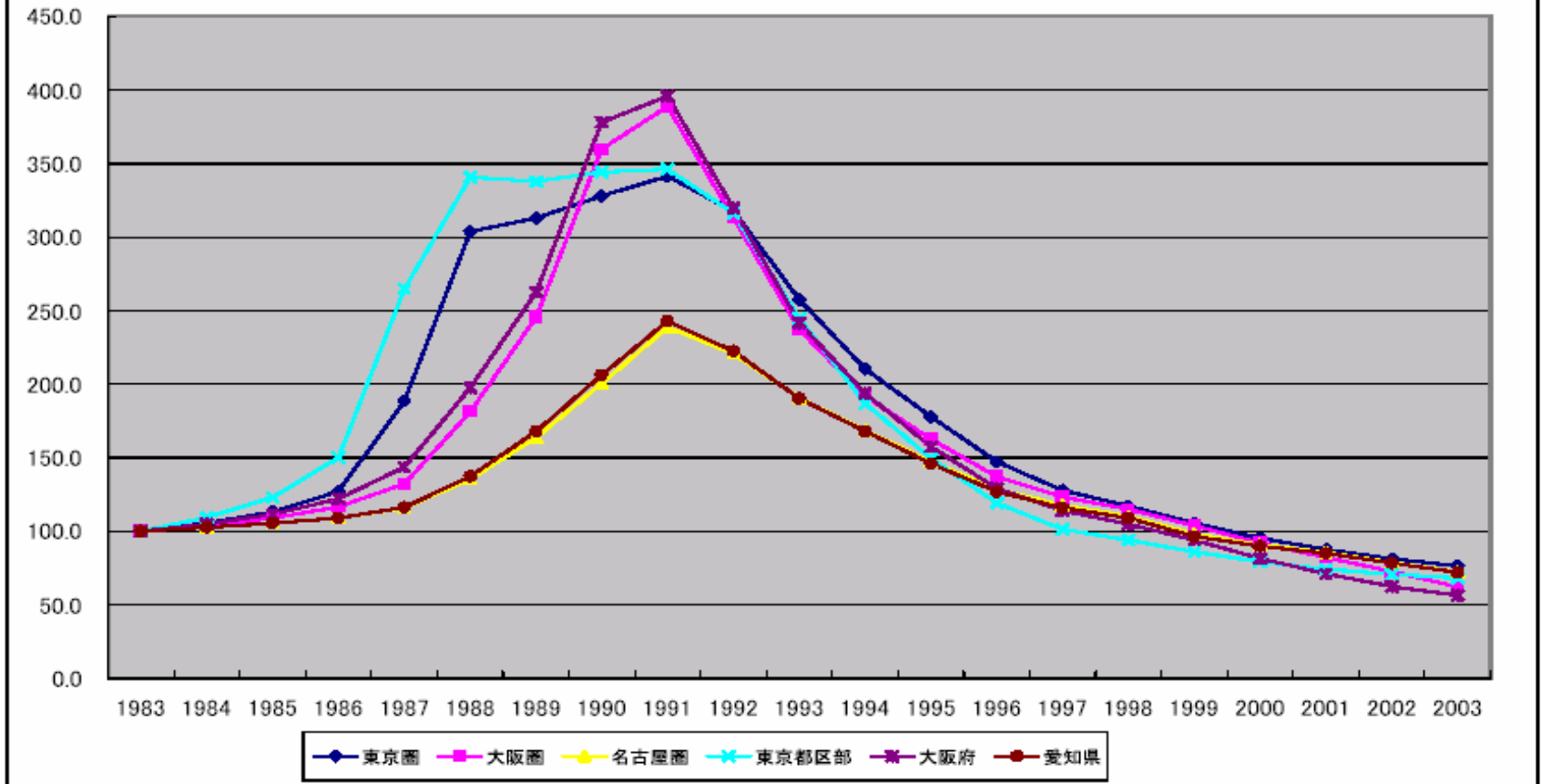
全国公示地価指数1983年=100 住宅地



データソース: www.kawatu.co.jp/nagoya/kwh/titasisu1.pdf

土地の担保価値の推移(商業地)

全国公示地価指数1983年=100 商業地



データソース: [www.kawatu.co.jp/nagoya/kwh/titasisu2 .pdf](http://www.kawatu.co.jp/nagoya/kwh/titasisu2.pdf)

企業再生と企業銀行関係

企業再生と中小企業金融

債務不履行のるつぼ、融資契約を分析する好機

担保の役割

リスク管理の手段

企業のモラルハザードを抑制する：企業が倒産すると無担保史債権者に対する弁済率は10年分割10%程度。銀行の交渉力が担保価値しだい。

企業再生と企業銀行関係(続き)

担保の功罪

極端に担保を重視する銀行は審査、監視などの情報生産の誘引(インセンティブ)が乏しい(lazy bank)。もちろん、経営不振企業に対して早期再生を講じるよりも放置する。担保によって債権が保全されるため、民事再生よりも破産(清算)を好む

他方、無担保無保証の場合には、事前審査の誘引が強まるが、事後に監視する誘引が小さい:優先順位の低い大口債権者は“火中の栗”を取らない

適度の担保は？

企業再生と企業銀行関係(続き)

大口債券者としての銀行

交渉が可能。中小企業の場合には債務免除が難しいが、リスケなどは考えられる

結論:

銀行融資の特徴から、銀行は情報を生産する誘引を持つかどうか疑わしい。その結果、担保付銀行借入比率が高い企業は、業績が悪化しても長く放置され、倒産に追い込まれる時点で既に再生見込みがほとんどない。われわれの実証分析はこれを支持する。

TSR調査データ：民事再生企業、破産企業

	破産（505社）			民事（332社）		
	平均	中央値	標準偏差	平均	中央値	標準偏差
借入金/負債合計	0.607	0.631	0.203	0.59	0.627	0.209
現預金/資産合計	0.103***	0.076***	0.097	0.086	0.058	0.086
取引銀行担保保全率（%）	51.50805	51.18085	13.0392	49.94495	51.13169	12.40827
（借入金/負債合計）×取引銀行担保保 全ダミー	0.180***	0	0.305	0.12	0	0.255
EBITDA/Assets	-0.001***	0.022	0.129	-0.055	0.022	0.434
売上高/資産合計	1.419*	1.192***	0.982	1.29	1.082	0.851
企業年齢の対数	3.390*	3.497***	0.54	3.495	3.555	0.521
資産合計の対数	13.580***	13.615***	1.261	14.339	14.326	1.552

Fraction of unsecured loan from main bank : 平成 15年度企業金融環境実態調査有効回答2604社

Fraction of unsecured and non-guaranteed loans from main bank by number of employees										
Num. of employees	~5	6~10	11~16	17~22	23~33	34~49	49~76	77~123	124~249	250~
					Percentiles					
10%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.3%
40%	13.5%	12.8%	8.2%	8.5%	11.5%	9.6%	3.8%	4.7%	8.5%	35.2%
50%	24.6%	23.9%	20.0%	27.3%	23.5%	26.4%	29.0%	22.1%	34.3%	54.5%
60%	40.8%	41.1%	33.3%	46.7%	38.5%	44.9%	49.2%	49.4%	61.5%	71.4%
70%	56.3%	53.7%	52.4%	67.8%	59.1%	66.1%	80.0%	78.3%	100.0%	100.0%
80%	82.4%	79.4%	76.7%	100.0%	95.3%	91.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
90%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
Mean	36.86%	36.30%	34.46%	39.64%	37.46%	38.81%	41.67%	40.70%	44.74%	52.21%
Standard Deviation	37.47%	37.49%	37.48%	40.21%	39.46%	39.22%	42.30%	42.25%	44.00%	41.18%
num. of sample	263	285	283	227	263	250	257	256	261	259

中小企業向け銀行融資の変化の兆し

無担保無保証型融資の広がり

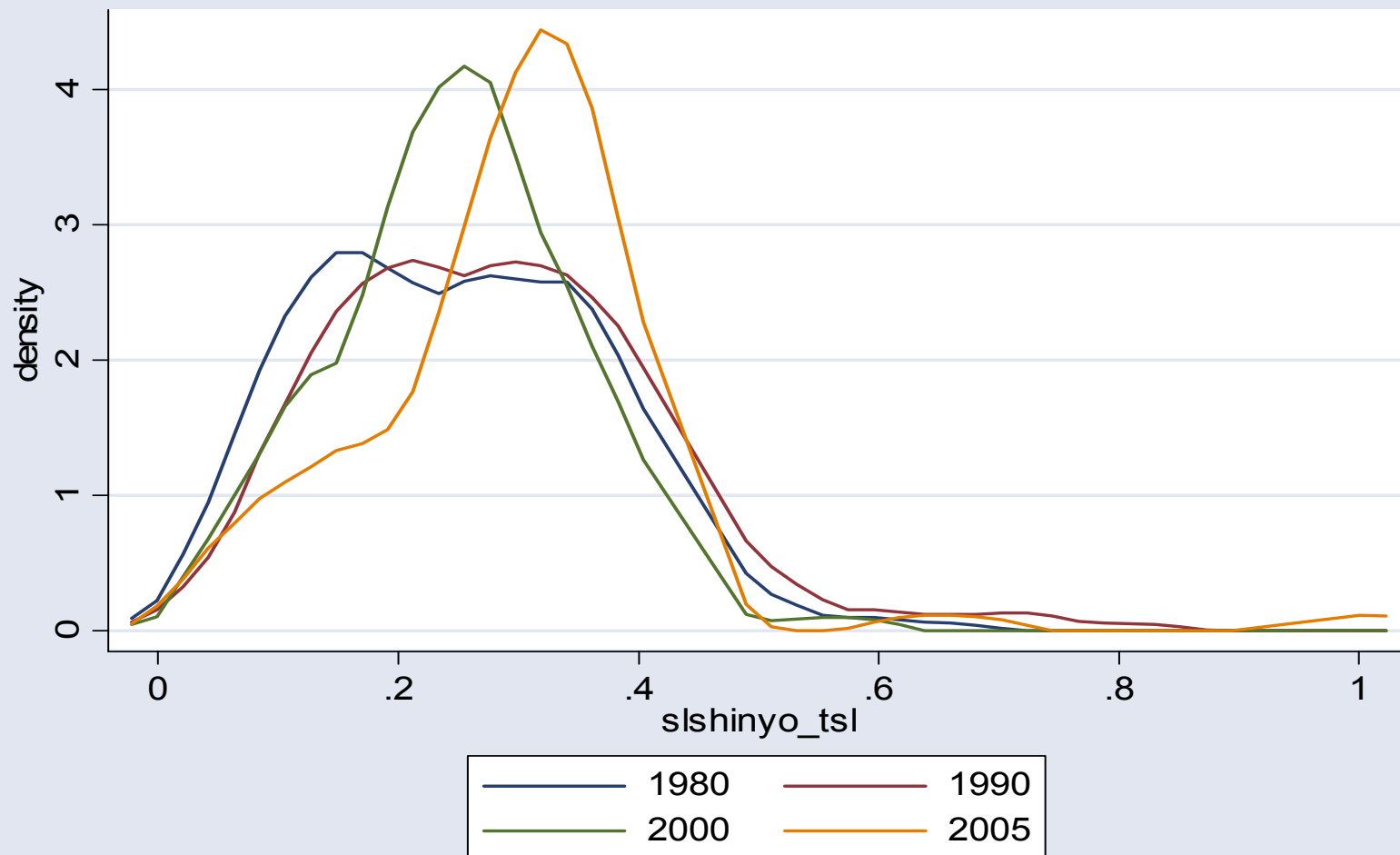
地価の下落、民法改正：包括根保証の無効

コベナンツの活用

コベナンツ活用はリレーションシップ・バンキングと相反しない。むしろ、銀行に情報生産の誘引を強化することが考えられる。

ただし、コベナンツに盛り込まれる立証可能な情報は？

信用貸出割合の変化



中小企業金融と企業再生：展望

無担保無保証型融資のデメリット

リスクと借り手のモラルハザード：無担保＋無保証
＋無信用＝リスク無限

無担保無保証型融資のメリット

審査、監視を行う誘引が強化され、業績悪化が放置されず早期再生が講じられる可能性。情報生産者によるDIPファイナンスが増加。ただし、ノウハウの蓄積は？

コベナンツの活用

早期再生の可能性